



photo : Ai Hirano

Tachibana Being vol.73

WebTB

WebTBIはさらに充実

<http://www.tachibana-u.ac.jp/webtb> October 2013

- 特集 橋力アップ!
- 02 クローズアップ京都橋大生
 - 04 研究室探訪
 - 06 ニュース&トピックス
 - 08 見る 知る サークル&クラブ
 - 10 突撃! 隣のたちばな生



オープンキャンパス スタッフ

看護学部
看護学科4回生
衣川 朋江さん

いつも笑顔で、親しく話しかけています。オープンキャンパススタッフには、看護学部の先生から声をかけられたのがきっかけで、2回生から参加しています。担当している「先輩と語る京都橘」では、受験生や保護者の方の質問や疑問に答えています。皆さんとても熱心に大学生活のことや授業のこと、受験に関するなどを聞いてくれます。私もできるだけ具体的に答えるようにしています。例えば、看護の授業に関しての質問に対しては、専門用語をなるべく使わず、誰にでもわかる言葉を選んで説明するようにしています。私が高校生のときに訪れた京都橘のオープンキャンパスで、先輩に優しく対応してもらったことを思い出して、自分も同じように、いつも笑顔で、親しく話しかけ、気軽に話せる雰囲気をつくるように心がけています。



活動は楽しく、頑張りがちで強さをもらっています。オープンキャンパススタッフの活動は楽しくて、私自身とても刺激になります。同じ看護職をめざしている受験生とは共感できることも多く、やる気いっぱい夢に向かって頑張ろうとしている人と話すと、こちらも初心に戻って、頑張ろうと思えるようになります。また、学生スタッフをしていることで、他学科の先輩後輩ともつながりができうれしいです。みんなでオープンキャンパスを盛り上げようという丸となっています。来てくれた受験生に京都橘のことをもっと知ってもらい、入学したいなと思えるように伝えていきたいです。



フリーペーパー「each,」の 制作

現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科4回生
池ヶ谷 周平さん



最新号 Vol.01
2013年7月15日発行
発行：季刊(4.7.10.1月予定)
配布エリア：大学構内、山科のカフェや雑貨屋など

フリーペーパーを通して、大学のある山科とつながりたい。もっと大学を盛り上げ、積極的に学生と地域がつながるような活動を始めたいと思っています。どんな活動をしようかと考えているときに、他大学の学生が作っているフリーペーパーの話を知り、これだと思いました。デザインや編集、撮影などはすべて、京都橘の学生で分担して作成しています。私もデザインを担当し、グラフィックソフトを独学で勉強しながら作っています。冊子デザインは、自分の好きな雑誌などを参考にして、文字の大きさや色合いのバランスを見ながら、サンプルで読みやすいものになるように心がけています。また、制作にかかると費用は、地元の企業

自分の思いを見つめ直すきっかけにしたい。制作に関しては、人の思いや心を伝えることを大切にしています。取材を受けてくれた人や読者、制作に関わった人たちが、自分の思いや夢を見つめ直すきっかけになればと思っています。また、活動している上で大事にしていることは、スタッフ同士のコミュニケーションです。ミーティングを毎週1回開き、みんなが意見を出しやすい環境をつくること、お互いの信頼関係を深め、全員が楽しく、イキキとできる場をめざしています。10年、20年と継続し、京都橘の学生の誰もが知るフリーペーパーにしたいですね。いつか、卒業生として「each,」で取材してもらえよう、成長していきたいと思っています。



ベトナムでの 海外留学研修

文学部
歴史学科3回生
久保田 幹也さん

海外で仕事かボランティアをしたい。留学を考えたのは2回生後期です。何もしないまま就活を始めることに少し疑問を感じていて、在学中に何かをしたいと思いました。その頃、留学経験のある先輩と話す機会があり、「1年くらい海外に行ってみることも、いい経験になるよ」と言われ、海外留学をしようと考えました。海外に行くなら、仕事かボランティアをしようと思いい、ある奨学金団体の海外留学研修に応募して、1年間、ベトナムダナン市のさくら日本語センターに派遣され、日本語教師をやりました。現地での活動は、日本語の入門・初級コースで、



作品を通じて、地域の人たちの交流ができた。3月19日に京都市右京区総合庁舎で、プロジェクトに参加した9大学合同の意見交換会が行われました。他大学の作品や、さまざまな表現方法について知り、自分たちの作品を見直す機会にもなり、いい刺激になりました。作品を設置しているとき、ある親子が、絵に笑顔で話しかけたり、一緒に写真を撮っているのを見て、うれしく感じるとともに地域の人と直接ではないけれど、作品を通じた交流ができるということに感動しました。次回は違うゼミの学生が参加しますが、地域の人たちを笑顔にして、つながれるような作品を作ってほしいです。



ダイガク×チカテツ 駅ナカアートプロジェクト

「ダイガク×チカテツ駅ナカアートプロジェクト」京都市交通局が地下鉄の駅構内を芸術的に演出しようと、京都市内の9大学に呼びかけて始まったプロジェクト

現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科3回生
嵯峨 聡予さん



プロジェクトを通して、ゼミ生同士の団結力が強くなった。地下鉄構内をアートで飾る「ダイガク×チカテツ駅ナカアートプロジェクト」への参加は、ゼミの授業の一環として取り組みました。ゼミで話し合い、樹辻駅の壁面に1枚の大きな絵を描くことになりました。作品タイトルは、「柳木の駅の仲間達」。柳木の木に動物たちが集まり、駅を利用する人たちに「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と挨拶するというものです。ゼミ生全員でのグループ制作は初めてで、意見調整は大変でしたが、この活動に取り組んだことで、ゼミ生同士で話す機会が増え、団結力も強くなりました。





研究室探訪

歴史上の人物の人生から 現状を相対化し 俯瞰的に見る視点を養う

京都橘大学の学長であり、日本中世史・思想史研究の第一人者でもありながら、おっとりとした優しい語り口と、時折見せるお茶目な一面で人気を集める細川涼一教授のゼミ。今回、細川教授に、ゼミ生の平原一馬さんがインタビューしました。

文学部歴史学科
細川 涼一 教授(学長)

日本中世史研究の 出発点と展開

平原：先生が、日本中世史の研究をされることになったきっかけは何ですか？

細川：高校が鎌倉にあったので、高校に通いながらいろいろな鎌倉時代の寺や史跡を見て回ったりして、仏教、武士、政治など鎌倉時代全般に興味をもったのがきっかけです。その後、大学で鎌倉仏教を研究し始めて、今に至ります。

平原：鎌倉仏教の研究とは、どのような研究ですか？

細川：鎌倉時代で有名なのは、法然や親鸞、道元などが興した新仏教ですが、私は、旧仏教の復興をした観尊や忍性などの研究をしています。観尊は、奈良時代に鑑真が伝えた戒律を守ることを重んじる「律宗」を再興した人物です。彼らは、慈善事業や貧民救済、茶の普及に努める



細川涼一プロフィール

1955年東京都生まれ。1984年中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得。1989年に京都橘大学(当時、京都橘女子大学)文学部に専任講師として着任し、現在、文学部歴史学科教授。専門は日本中世史・思想史。『日本中世の社会と寺社』(思文閣出版)、『関東往還記』(平凡社)、『漂泊の日本中世』(ちくま学芸文庫)など、編著書多数。

などの活動をしました。そうしたことから、私は、社会的な影響力においては、新仏教の開祖よりも観尊たちのほうが大きかったのではないかと考えています。仏教史は、私の研究の出発点ですね。

平原：先生は仏教史のほかに女性史の研究もされていますが、それはいつ頃から始められたのですか？

細川：本学に着任してからです。当時は女子大学でしたし、巫生が興味を持つ授業を考えたとときに、もともと研究していた仏教の教義などを教えるよりも、鎌倉時代の政治史と女性史とを結びつけた授業をするほうが適していると考えました。そういうわけで女性史にも研究分野を広げました。また、もともとの研究においても、平安時代に廃れてしまった法華寺などの尼寺を、観尊が復興したという史実もあり、女性史と関係がな



かったわけでもありません。私は、歴史的に権力を握って勝者となった側より、あまり脚光を浴びない人を発掘するのが好きで、時の流れに翻弄された人たち、つまり庶民・民衆の歴史を研究対象としています。

歴史学を学ぶにあたって重要なこと

平原：今後は、どのような研究をされていく予定ですか？

細川：私は、1999年に『感身学正記』(平凡社)という本を出版しました。これは観尊の自伝を活字にしたものですが、実は全2巻で完結するものです。今後は続きの注釈書を完成していこうと思っています。

平原：今年2013年に出版された『日本中世の社会と寺社』は、先生の研究のまとめのように思ったのですが、この本の中からで学生が読むのにお薦めのところはどこでしょうか？



『日本中世の社会と寺社』
思文閣出版

細川：この本は、四部構成となっています。序論は、自分の研究の出発点において大きな影響を受けた研究者一人の著書と向き合ったものです。第一・二部は鎌倉仏教律宗中心、第三部は本学所蔵の北野天満宮の文書の解釈で、専門家向きです。第四部の源義経の妻と母の部分



を、高校生や大学生にはお薦めします。全体としては、研究者向けの本かもしれませんが、歴史学を学ぶ皆さんには、読みやすいところからでいいので、読んでほしいですね。

平原：私たちが学生が専門書や論文を読むときに気をつけるべきことは何でしょうか？

細川：二つあると思います。一つは、著者が論文や書物のなかで、新しいかたちで何を実証しようとしているのかを読みとることです。歴史学において、事実の確定をするために著者がどんな史料を用いて、どのようなことを結論として導き出そうとしているのか、ということを読み取るのがとても重要だからです。二つ目は論理の展開を考へることです。今の歴史学は、事実の実証に走っている傾向がありますが、昔はもっと自由に論争し、大胆な説を立てることができたように思います。ですが

ら、平原くんたちの卒論作成時にも、実証のために史料をきちんと読み込むことと同時に、自分なりの歴史的な論を大胆に打ち出してみることも必要なのではないでしょうか。

歴史を学ぶ意義

平原：歴史を学ぶことには、どのような意味があるのでしょうか？

細川：例えばですが、東アジア近隣諸国と日本との関係において、歴史的な経緯から、特効薬的な解決の道はないのかもしれない。しかし、歴史を学ぶことによって、少し広いスパンで、近視眼的ではないかたちで、現状を相対化して俯瞰的に眺める視点を養うことができると思います。歴史上の人物、他者の人生を知ることによって、自分の未来が大きく見えてくることもあるのではないのでしょうか。人の生き方には、絶対唯一の正解があるわけではないですし、人



文科学においても正解はひとつではない。そうしたことを学生たちには学んでほしいですね。また、50枚にもわたる卒業論文を作成すること、つまり根拠を示しながら第三者にわかる論理的な文章を書く訓練をしたことは、社会に出てからも、どんな職業に就いても必ず役に立つと思います。

インタビュー

文学部
歴史学科4回生
平原 一馬 さん



細川先生には2年間ゼミでお世話になっていますが、今回は普段の授業では聞けない先生のルーツや歴史に対する考え、歴史を学ぶ意義など、とても興味深いお話を聞かせていただくことができました。また、私の卒業論文のテーマである「枯山水と山水河原者」は、細川先生の専門分野、特に仏教や庶民の文化の研究と重なる部分が多くあるので、今後いろいろなお話を聞きながら論文作成を進めていこうと思います。

2013年度 橘祭日程が決定!

第46回橘祭の日程が、2013年10月26日(土)・27日(日)に決まりました。大学祭実行委員会の学生たちが丸となり、準備を進めています。今年は、新企画「Tachibanaミス・ミスターコンテスト」や、淳芳会企画として本学卒業生が結成する「日本エレキテル連合」(タイタン所属)のお笑いライブもあります。橘祭に、ぜひ皆さんお越しください。
※企画の詳細は、橘祭ホームページやパンフレット等でご確認ください。

26日(土)

- サークル・ゼミ対抗選手権クイズと障害物リレー
- スタンプラリー
- サークル・有志発表
吹奏楽部・放送研究部・箏曲部・パトリアン同好会・京炎そでふれ!部・居合道部・和太鼓部・ダンス部など
- アーティストライブ

27日(日)

- Tachibanaミス・ミスターコンテスト
- 観客参加型ゲーム大会(仮)
- スタンプラリー
- BINGO大会
- サークル・有志発表
書道部・パトリアン同好会・居合道部・ダンス部・和太鼓部
- 淳芳会企画・本学卒業生お笑いライブ(日本エレキテル連合)
- 吉本興業お笑いライブ
- 児童教育学科企画・ちびっこランド



京都新聞@キャンパスで学生が取材・執筆した記事が掲載されました!



毎週水曜日の京都新聞夕刊の「@キャンパス」は、京都と滋賀の大学に通う学生が、自らテーマを決めて取材・編集をする企画記事です。7月10日(水)発行の「@キャンパス」は、本学の英語コミュニケーション学科の西村友美教授のもとで、同学科の学生たち10名が担当しました。今回の学生たちは、2回生時に半年間の海外留学経験のあるメンバーばかり。日本で英語を話す機会をつくって英語力を高め、どんどん海外へ飛び出していってほしいという思いから、「国際都市・京都ならではの外国人との交流について」というテーマで、記事作成に取り組みました。

取材にあたって、まず外国人と英語で話す機会をつくるため、「外国人お助け隊」を結成。四条大橋や京都駅に「Can I help you?」などと書いたボードを持って立ち、英語で外国人観光客をサポートするボランティアをしました。そのほか、国際交流パーティーや、京都市国際交流会館で行われている外国人向けの日本語講座のボランティアにも参加。自ら動くことで、日本でも外国人と交流し語学力を高める機会は多くあること、そして、人の役に立つことが自分の心を満たすものであることを再確認しました。

心理臨床センターを開設しました



2013年7月1日(月)、本学は心理臨床センターを開設しました。本センターは、あらゆる年代の方を対象に、学校でのいじめや不登校、発達障害、職場でのメンタルヘルスなどのさまざまな心の相談に対応する施設です。現代の心の問題の援助・支援を目的とした心理臨床センターを開設することにより、地域社会への貢献をはかっていきます。
初年度の活動として、心理相談のほか、子育てについて考える「パパとママのこころ育て広場」や、保育・教育・福祉関係の方を対象とした「対人援助職セミナー」、臨床心理士・臨床心理学専攻の大学院生や専門職対象の「臨床心理セミナー」を予定しています。

理学療法学生学会が発足

2012年4月に設立された健康科学部理学療法学科では、4つの学生学会が発足しました。学生が自ら関心のある研究会に入ること、理学療法の追求と主体的な学習意欲を喚起し、同じ目標を持った仲間との交流を深めることを目的としたものです。基礎医学研究会、物理療法研究会、動作分析研究会、臨床評価研究会の4つで、それぞれ10~20名の学生が所属し、専任教員が指導にあたります。各研究会の2012年度の活動内容は下記の通りでした。今後も継続的に研究を深めていく予定です。

- 基礎医学研究会…理学療法士国家試験の問題傾向を分析し、実力テストや解説を作成
- 物理療法研究会…機器を使用して患者の患部の痛みやしびれを緩和する温熱や牽引などの治療法を実際に体験しながら学習
- 動作分析研究会…日常生活の中の身体の動きを、機械または自らの目や手を使って観察し、分析
- 臨床評価研究会…3・4回生の臨床実習に必要な評価法の知識や技術を先取りして学び、病院などで実践



灯りイベントの「七夕陶灯路」を開催



2013年7月5日(金)、本学キャンパスで「七夕陶灯路」を開催しました。これは、今年で5回目となるイベントで、企画から運営までを現代ビジネス学部の学生会の学生たちが組織する実行委員会で担っています。
陶灯路とは、山科の伝統産業である清水焼の陶器や、切り子ガラスを使った灯りイベントで、地域との連携活動から生まれたものです。陶器やガラスに水を張り、そこに入れたろうそくに火を灯して並べ、キャンパスを幻想的に彩ります。今年は、京都の夏の風物詩である「五山の送り火」を、約3,000個の陶器やガラスを使って、5つのゾーンで表現しました。
当日は、学生だけでなく、地域の方々も大勢来場し、吹奏楽や箏曲部の演奏に耳を傾けたり、短冊飾りに願いごとを書いたり、星空スタンプラリーをするなど、一足早い京都の夏を楽しむ様子が見られました。

「橘 教育・保育研究会」を設立しました



本学児童教育学科は、開設7年を迎え、卒業生も350名を超えました。全国各地で活躍する卒業生同士の交流の促進や、実践と研究を深め合うために、卒業生と在学生による研究会「橘 教育・保育研究会」(仮称:当面はこの名称で運営)を設立しました。卒業生のネットワークを形成し、サポートし合える体制づくりをめざしています。
2013年7月15日(月・祝)に、第1回の研究会が本学の児優館C201教室で開催されました。教員の実践講座、3人の卒業生の報告の後、交流会が行われ、職場のことや実務上の課題などについて、卒業生、在学生、教員の間で活発に意見が交わされました。第2回の研究会は、11月10日(日)10時から12時に、第1回と同じ児優館C201教室で予定されています。



見る知る

サークル&クラブ



着物部

活動日：水
時間：16:15～

活動場所：リパティホール5階 BOX608か教室、学生会館
イベント情報：橘祭で模擬店を出店



文学部
文化財学科3回生
岩谷 美芽さん

着物を着て京都のまちやお祭りに一緒に出かけませんか？

いつも和気あいあいとした雰囲気
のクラブです。1人で着物や浴衣
が着られるように、着付けの練習
をしています。先輩が丁寧に教え
ますので、今まで着物を着たこと
がない人も、安心です。着物を持
っていない人も大丈夫。部に一式
そろっていますので貸すことがで
きます。着付け体験もしています
ので、少しでも興味のある人は気
軽にクラブボックスに来てくださ
い。着付け以外にも、髪ゴムやか
んざし、ガマ口のカバンなどのか

わいい雑貨や着物をリメイクした
りしています。
京都では、お祭りやイベントがた
くさん開催され、着物を着て出か
ける機会も多くあります。着物部
では、毎年、祇園祭や大文字の送
り火に浴衣で行ったり、紅葉狩り
に着物で出かけたりしています。
ときどき和雑貨屋や着物屋めぐり
をして、手頃で素敵な着物を見つ
けることもあります。着物を着て、
京都のまちを楽しく散歩しましょ
う。



箏曲部

活動日：月・水
時間：16:30～

活動場所：リパティホール5階 BOX503・508
イベント情報：定期演奏会 12月1日(日) 会場：京都市東部文化会館



琴と三味線の美しいハーモニーを奏でましょう！

箏曲部は、少人数で活動していま
すが、先輩・後輩関係なく、とても
仲がよく、何でも話し合える関係で
す。大学から始めた人も多いため、
初心者でも大丈夫。先生や先輩が
一から丁寧に教えるので、すぐに弾
けるようになりますよ。
京都府内にある京都市学生三曲連盟
(箏・三味線・尺八に関係のあるサー
クルや部で構成している連盟)に加
盟して、6・12月の定期演奏
会に参加しています。他大学の学

生と一緒に演奏することは、とても
楽しく、達成感が大きいので、ぜひ
体験してほしいです。演奏会を通じ
て友達もたくさんできますよ。ほか
にも、京都橘のみの定期演奏会や
随心院のイベント、学内のイベント
などで演奏したりと、積極的に活動
しています。少しでも興味がある人
は、部室まで来てください。楽器演
奏の体験もできます。一緒に美し
いハーモニーを奏でましょう！



文学部
日本語日本文学科2回生
中村 朱里さん

男子バレーボール部

活動日：月・木・土
時間：月・木 18:00～21:00、土は変動

活動場所：中央体育館、第2体育館
試合情報：関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦(9月開始)



現代ビジネス学部
現代マネジメント学科2回生
平岡 誉登さん

上部リーグをめざして、頑張っています！

入部した頃の男子バレーボール部
は、楽しむことが中心で、あまり活
発には活動していない状態でした。
ですが、僕は小・中・高とずっとバ
レーボールをしてきて、大学でも頑
張りたいと思っていたので、同じ気
持の部員たちと一緒に、上部リー
グに上げられるような練習メニュー
に変えていきました。その結果、
2012年の春季リーグの8部で優勝
し、それからリーグ戦で優勝を続け、
現在は5部まで上がることができま

した。これからもさらに上部リー
グをめざして奮闘中です。
大学でもバレーボールを続けたい
と思っている人。大学で勉強以外
でも、何か頑張りたいと思ってい
る人。ぜひ男子バレーボール部へ入
りませんか。未経験の人も歓迎で
す。一緒に練習すれば、試合にも
出られます。僕たちのモットーは、
「楽しく！そして、やるときはやる！」
です。男子バレー部を盛り上げて
いきましょう。



京炎そでふれ！部 Tacchi

活動日：火・木・金
時間：16:15～20:00

活動場所：中央広場
イベント情報：京都学生祭典 本祭 10月13日(日) 会場：平安神宮、岡崎公園一帯



※「京炎そでふれ！」とは、京都学生祭典から生ま
れたオリジナルの創作おどりのこと。京都の
大学には12チーム、約1,000人の踊り手が
いて、イベントの中心となって踊っています。

たくさんの出会いを大切に踊っています！

「京炎そでふれ！」全体の活動とし
ては、京都学生祭典や京都さくら
よさこい、神戸よさこいなどの祭り
に参加しています。そこで他大学の
学生と話したり、一緒に活動するこ
とで、考えの幅が広がり、全体を
見ながら行動できるようになりまし
た。
また、京都橘の Tacchi 独自の活動
では、山科地域のお祭りや、老人
ホーム、小学校などで踊りを披露し
たり、教えたりしています。同世代
だけでなく、さまざまな年代の方

とたくさんの出会いがあることが魅
力の一つです。
練習は、明るく、楽しく、まじめに、
をモットーにしています。アット
ホームな雰囲気、一人ひとりと話
す機会も多いので、縦横のつな
がりもしっかりしています。ほとん
どの学生が未経験から始めていま
す。僕もその一人ですが、踊って
みたらすっかりおもしろさに夢中
になりました。
頑張ってるので、応援を
よろしくお願いします！



人間発達学部
児童教育学科2回生
菅生 大夢さん

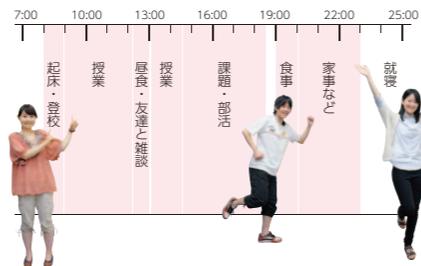


My Room



文学部
日本語日本文学科
3回生
前田 規帆さん
出身地：兵庫県
将来の夢：アナウンサー

ある1日のスケジュール



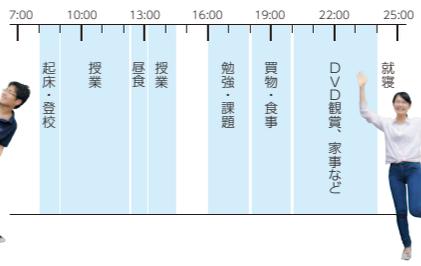
下宿生活はどうですか？
一人きりの空間は、少し寂しいので、下宿の部屋にはぬいぐるみをたくさん置いています。リラックスしたいときは、ベッドに腰掛けてぬいぐるみをお

突撃！

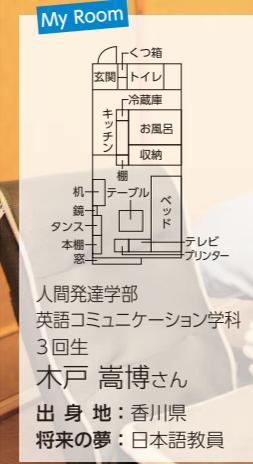
隣のたち ぼな生

京都橘の学生は、みんなどんな大学生活を送っているのでしょうか？今回、たちはなブログスタッフ*の6人が、下宿生活を送る学生のお宅をしのこと、またホームステイ先のお宅についてインタビューしてきました。
*たちはなブログ...大学公式ブログ.京都橘の学生がブログガーとして活躍中!
<http://www2.tachibana-u.ac.jp/newblog/>

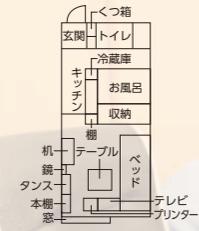
ある1日のスケジュール



大学では、どんなことを学んでいるのですか？
英語コミュニケーション学科で、比較文化について学んでいます。ゼミでは、「Japanese Mind」(チャールズ・イ・タトル出版2010)という日本の文化や概念について書かれた英語の文献を読み、要約や自分の意見を発表したり、ディスカッションなどをしています。また、日本語教員をめざしているので、日本語学や言語学の授業も受講しています。
2回生の後期に、SAP*でアメリカに半年間留学をしたのですが、留学先の大学での学生参加型授業が印象に残っています。先生からの問いかけに対して学生が自分の考えを表現し、積極的に議論が交わされ、最後は結論が導き出されていくという形式で、とてもおもしろかったです。英語というコミュニケーションツールを使って世界中の人と交流し、世界中のことを知ることができるのが、この学科で学ぶ魅力だと思います。
*SAP: 英語コミュニケーション学科の2回生後期に行われる約6か月間の海外留学プログラム。



My Room



人間発達学部
英語コミュニケーション学科
3回生
木戸 嵩博さん
出身地：香川県
将来の夢：日本語教員



▲アナウンスの教材
▼お気に入りのものを集めた壁



▲日本語教員になるための教材
▲新車のバイク



▲決め手となった部屋の扉

下宿生活はどうですか？
この下宿を選ぶときに気に入ったのが、部屋に扉がついていることです。玄関から部屋のなかが見えないので、プライバシーを守れますし、部屋の温度調節も簡単にできます。ワンルームの賃貸の部屋では、扉がついていないところも多くあるので、重宝しています。また、トイレとお風呂が別の、セパレートタイプなのも決め手でした。ひとり暮らしなので、常に戸締りには気をつけています。部屋の戸締りは絶対！皆さんも、家を出るときは窓やドアの鍵の確認をしましょうね。



▲さすがアメリカという感じの広い家です

ホームステイ先はどのようなお家だったのですか？
ホームステイ先の家は10部屋以上ある広い家で、庭には噴水やバスケットコートがありました。私のほかにも数人の留學生がステイしていて、皆と一緒に夕食をとったり、テレビで野球観戦をしたりと、本当に温かな家庭でした。留学を経験したことで、異文化のなかで自分が生きていく術を見いだし、自信ができました。



▲留学先の大学の学生からもらった、思い出のストラップ
▲窓から外を見ると落ち着きます

編集後記

学生生活があかるページ作成、みんなと頑張りました！
文学部 歴史学科 3回生 久保田 幹也

木戸さん、前田さんそして皆さん、ありがとうございました！！
看護学部 看護学科 3回生 鶴井 彩乃

皆さんと協力して記事をつくれて楽しかったです！
人間発達学部 英語コミュニケーション学科 2回生 田村 梨菜

この取材を通して、自分に合った楽しい大学生活を送りたいなと感じました。
文学部 日本語日本文学科 3回生 清水 華菜子

自然な写真を撮るのが難しかったのですが、楽しかったです！
文学部 文化財学科 3回生 小栗 実

皆さんお疲れ様でした。次は表紙ねらいます！（笑）
文学部 歴史学科 2回生 高橋 瑠星

